

カパーストリーム

Copper Stream

感動できる暮らし
銅管のある住まい



び じ ん も り
美 尽 の 杜

はるひ野 分譲住宅
トヨタホーム東京株式会社



感動できる暮らし
銅管のある住まい

川崎市・はるひ野

美尽の杜

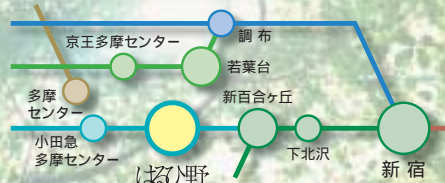
b i j i n - n o - m o r i



新宿駅から電車で28分。都市と程よい距離にある小田急多摩線「はるひ野」の駅に降り立つ。
ここを訪れたのは、今回トヨタホーム東京(株)が、初めて給水・給湯配管にヘッダー工法による銅管を採用され
2008年1月より販売を開始する高級分譲住宅「美尽の杜」を見学させていただくため。
どういった住まい、街ができ上がっているのか、足取り軽く、さっそく「美尽の杜」へ…。

自然とともに生きることの 豊かさを追求した、森と光の全49邸。

駅から「美尽の杜」までは、徒歩約8分。
古くは万葉集で「多摩の横山」と謳われた里山の豊かな自然が、私たちの心を和ませてくれます。
現在、新しいショッピングセンター、小中学校などが建設中で、生活環境も充実しています。
今回、お訪ねした美尽の杜は、「自然と共に生きることの大切さと、本質的な暮らしの豊かさ」を追求した全49邸。
森と光をテーマにした主に2つの街区で構成されています。
1月から販売が始まるのは「光の区」。
その数棟を見学させていただくことに。
外観の優美さに見とれながら、室内に入ると、あらゆる面で自然と同居する上質な住まいの美しさに思わずため息が…。
新居を検討されている方は、ぜひ一度、ご覧になられてはいかがでしょうか。



小田急多摩線「はるひ野」駅より「新宿」駅へ28分
「はるひ野」駅より徒歩8分。「若葉台」駅も徒歩圏内。
神奈川県川崎市麻生区はるひ野 3-24-9 他
bijnnomori.com

これからの住まいに求められる
ステイタスと資産価値を…。
見えないところにも
最高のこだわりを持ちたい。



トヨタホーム株式会社
東京建設部 建設部長
一級建築士 横澤 豊氏

いま分譲住宅で注目されているのは「資産価値の高さ」です。私たちがご提供する「美尽の杜」は、周辺環境と美しく融合できる街並を意識すると共に、一棟一棟に住宅としての資産価値を高める工夫を随所に施しています。そのため目に見えない設備や配管にも、とことんこだわっています。私は、元々設計を担当していた人間ですので、建築素材としての銅に関心を持っていました。今回、給水・給湯配管に銅管を採用するため、銅管の耐久性や安全性などを調べましたが、その性能に改めて驚かされています。

ワンランク上の上質な暮らし、 トヨタ・クオリティを実現します。

はるひ野は、多くの方が注目する新しい高級住宅地として、各住宅メーカーが様々な住宅を計画しています。当社は、独自のこだわりと技術で、心から満足いただける高級物件をご提供できるように、いろいろと工夫を凝らしています。コンセプトは、自然との共生であり、そこから生まれる本質的な住まいの豊かさの体現。街のたたずまいと同調する外観デザインはもちろん、インナーデザイン、ファシリティ、アメニティ、セキュリティなど、あらゆる点でワンランク上の上質さを随所に追求しています。そこには、皆様に永く愛され続ける安心・強固な住まいを実現するトヨタSW工法をはじめ、トヨタならではの最新技術も採用されています。



トヨタホーム株式会社
分譲住宅営業部 分譲積算課
畠山 勇志氏



森と光、自然の恵みを 住まいに「デザイン」

ひな壇地の立地を効果的に活かし、全邸が南向きになっています。光の区では、高天井や吹抜けに高窓を配したプランやアウトリビングとして使えるテラス付きのプランなど、光を存分に享受できる住まいをデザイン。森の区では、リビングを森側に配したプラン、各居室から緑が眺められるプラン、広々としたスカイバルコニーなど、森と一体になった住まいをデザインしています。



縦にも横にも、ゆとりの空間を 「メーターモジュール」

現代人の体格に合わせたメーターモジュールを採用。廊下の幅は約1m、天井の高さは、約2.5mに設定。縦にも、横にもゆとりある空間づくりを心がけています。



住まい全体を包み込むように暖める 「外断熱外通気方式」

外側を切れ目なく断熱材ですっぽりと覆う、外断熱外通気方式を採用しています。熱が外に逃げにくく、内側にも通しにくいので、寒い冬でも快適に過ごせます。暖房コストが節約でき、地球にもやさしい住まいです。



トヨタの車の技術を活かした 「安心・快適のファシリティ」

車の排ガス規制の応用から生まれた、室内の空気をつねに新鮮に保つ光清浄換気扇「エアナビ」。わざわざカギを出さなくても携帯しているだけで、玄関ドアが自動的に施錠・解錠できる「スマートキー」など、トヨタの車の最新技術を応用したファシリティで快適さと安心を実現しています。

私たちは、より長期にわたって住まいの保証を行えるように、様々な面で住宅のクオリティを高める努力を続けていますが、銅管を採用することで、配管面でのレベルアップを図れたと満足しています。また、いま社会全般で環境意識が高まっていますが、銅のリサイクル性の素晴らしさにも注目しています。エコ意識の高い方が、住まいに太陽光発電などを取り入れられているように「環境を考えて配管に銅管を選ぶ」、銅管はそういった「住まいの新しいステイタスを感じる存在」になれるのではないかと大いに期待しています。



トヨタホーム東京株式会社
分譲住宅営業部 企画業務課
佐藤 奈美子氏

私たちのコンセプトに最適な配管材料。 分譲住宅の給水・給湯に初めて銅管を採用。

ワンランク上の快適さと安心を実現するために、私たちは、目に見えない所にも、いままでにないクオリティを求めました。そのひとつが、給水・給湯配管への銅管の採用です。実は、当社で銅管を本格的に使用したのは、美尽の杜が初めてです。それに踏み切ることができたのは、住友軽金属工業(株)とスミケイ銅管販売(株)の皆様より、銅管セミナーを開催していただき、銅管の特性や性能、そして工法による利点まで、詳しく説明していただけたのが大きかったと思います。それにより、私たちのコンセプトである「自然と共生できる住まい」「本当に豊かな暮らし」を陰で支えてくれる最適な管材として、自信を持って銅管を選択することができたのです。

知れば知るほど、住む人にプラスの配管材料

いままでも銅の微量金属作用や抗菌性について、少しは知識もあったのですが、詳しい資料や説明をいただくことで、より衛生面で強化が図れることを理解できました。老人ホームや病院で銅管が採用されて来た実績も、大きかったですね。さらに、ヘッダー工法により、湯待ち時間を短縮でき、節水にも有効なこと。施工もより効率的、安全に行えることもわかり、安心しました。また、銅のリサイクル性や有価金属としての評価の高さには、正直驚かされました。自然にやさしく、かつ資産価値としてもグレードの高い銅管は、住む人にステイタスを感じさせる、理想的な配管材料だと思います。

今後、当社の住宅の標準仕様になれば...

私たちはセミナーにより、多くの知識を得たので良かったのですが、それまでは緑青への誤解、また銅管が地震などにも強い、耐久性にも優れた配管材料であることなど、わかっていなかったことは数多くありました。ぜひ多くの一般の方に、銅の特性、メリットを広くPRしていただきたいですね。そうすることで、私たちも住宅を購入される方に、銅管を採用する意義をアピールしやすくなります。美尽の杜で銅管への評価が高まっていけば、やがては、銅管が当社の給水・給湯配管材料の標準装備になっていくことも...。そうならば素晴らしいと期待しています。

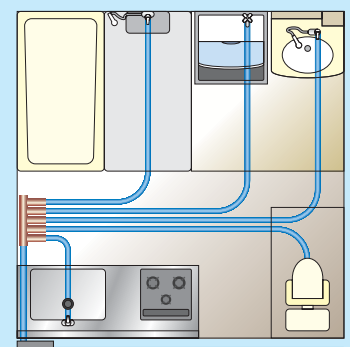


ますます注目を集める「銅管ヘッダー工法」

今回ご紹介した「美尽の杜」のように、銅管ヘッダー工法を採用した戸建住宅や集合住宅などが、全国的に続々と増え続けています。今後も実際に使用された物件のご紹介や最新技術などをタイムリーにお伝えし、皆様をご検討する際の参考になるようにしていきたいと思ひます。

【人気を集めるポイントは...】

- 従来の先分岐工法に比べ、施工効率に優れている。
- スケールが付着せず、流量変動が小さく快適に使用できる。
- 湯待ち時間が短縮され、節水にも有効である。
- 接続は機械継手を用いるので、火気を使用せず安全で簡単。 などがあります。



給水給湯用配管概略図

御園 良彦氏(前東京都水道局長)レポート



地下鉄駅舎の銅配管

日本でも多くの人々がTVや新聞の報道に釘付けとなった9・11テロ。その悲劇の地「グランドゼロ」も現在、着々と復興作業が進められています。グランドゼロは、いまやアメリカ人だけではなく世界中の平和を願う人々のシンボル。この復興現場で活躍しているのが、銅管です。欧米の給水事情に精通された御園 良彦氏が「第二回世界大都市気候変動サミット」に出席された際に目撃したニューヨークでの復興の様子と、現在のアメリカにおける給水配管の現状。2007年6月21日「日本水道新聞」に掲載された記事には、今後、日本の水道配管が学ぶべき点が示唆されています。

グランドゼロの復興に活躍する銅管。そこから、いま日本が学ぶことは...

復興が進むグランドゼロの現場

銅管が選ばれたのは、長年培われた信頼の証

今回のサミットに出席した際、どうしても見学しておきたかった場所がありました。それは、貿易センタービルがあったグランドゼロの復興現場です。現在、作業は着々と進められ、すでに地下鉄の駅舎は完成していました。この地下鉄駅舎の配管を見せていただいたのですが、そこには、多くの銅管が使用されていました。今日のアメリカにとって、グランドゼロは、とても重要な場所です。そこに銅管が使われているということは、それだけ銅という素材が、水道で極めて高い信頼を得ている証なのです。欧米は、日本に比べて早い時代から水道の配管に、銅管を使用し続けています。私は、昭和62年にアメリカ、ヨーロッパ各国の給水設備を視察する機会に恵まれましたが、当時から給水配管の主役は銅管でした。様々な管材がある中でも、今回拝見したグランドゼロの復興にあえて銅管が選ばれている理由はいくつか想定できます。しかし、アメリカの水道の歴史の中で、銅管が築いてきた実績を考えれば、選ばれて当然のことなのかも知れません。

宿泊したホテルにも、やはり銅管が使われていた

ニューヨークで開催されたサミットに出席している間、市内のホテルに宿泊していました。私としては、やはり給水設備がどうなっているのが気になります。セキュリティは厳しいのですが、無理をお願いして給排水や空調設備などを見学させていただきました。高置水槽はありましたが、直結給水でした。しかも給水安定性を確保するために、ホテルの前と後の道路から二重に引き込んでいました。管種は、分岐部の口径の大きいものはダクタイル鋳鉄管ですが、75mm以下は、すべて銅管です。ホテル内ではかなりの銅管を備蓄し、給水系も給湯系も断水に備えて万全の体制を整えています。以前、ロサンゼルス市を視察した際も分岐から50mm以下は銅管でしたが、その傾向が現在まで続いているようです。樹脂管を採用しているのかと、ホテルの設備責任者に質問したところ、一部の樹脂管は火災時に有毒ガスが発生するため、アメリカでは建築基準法で規制されていて、

金属管、特に銅管が主流になっているとのことです。万が一の災害も配慮しながら、より適した信頼できる管材を選ぶ、これは今後の日本が給水設備を考える上で学ぶべき点のひとつではないでしょうか。

環境との共生を、配管も真剣に考える時が来ている

最近、ヨーロッパでは樹脂管を使用するところも出て来ましたが、まだまだ銅管は根強い人気があります。日本では、銅管は高いとか、緑青は良くないなどの誤解が残っていますが、逆に、銅管には滅菌効果があり、赤水問題もない衛生的な管材だと思います。さらに、銅管はかなりの水準でリサイクルが可能であり、それも欧米での高い評価のひとつになっています。わが国で銅管が欧米並みに評価されるようになるには、配管施工技術者をもっと育成したり、より簡便な施工技術を開発することが必要ではないでしょうか。今回のサミットでは、様々な角度から地球環境への取り組みが報告されました。各国での推進はもちろん、都市レベルにおいても独自の活動を行っているようです。こうした報告を伺っていると、日本の水道界も環境との共生を真剣に考える時期に来ているのではと痛感します。アメリカでは、銅管をグランドゼロでも、各都市のホテルなどでも、積極的に採用しています。その実力は、だれも疑うことはないでしょう。いまこそ日本でも銅管の存在をしっかりと見直すべきではないでしょうか。銅管が、衛生的で耐久性のある有望な管材なのは、もう間違いないのですから。



サミットで発言される前東京都公営企業管理者水道局長 御園 良彦氏



ホテル内給水・給湯はすべて銅管